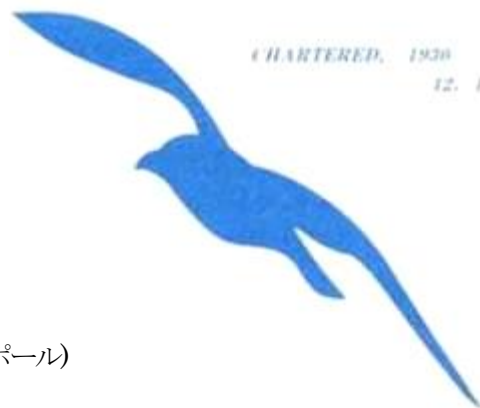




会長 齋藤 宙也
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

国際会長 (IP) Edward Ong (シンガポール)

“Faith, Love, Action” 「信念、愛、行動」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田上 正 (熊本むさし)

“Act now with faith and love!”

「信念と愛を持って行動しよう！」

東日本区理事 (RD) 山下 真 (十勝)

「ワイズらしさの再発見」

“Rediscovering Y's Uniqueness”

かながわ部長 (DG) 兵藤 芳朗 (鎌倉)

「共に歩み 交流を深め 部の「絆」を強めよう」

横浜クラブ会長 (CP) 齋藤 宙也

「信念と愛をもって行動しよう！」

監事 松島 美一
ブリテン 秋元 美晴
担当主事 菅原 歩

<今月の聖句>

古田 和彦

御国が来ますように。
御心が行われますように、
天におけるように地の上にも。

(マタイによる福音書 6 章 10 節)

今月のひとこと

父の戦争体験と私

秋元 美晴

2025年の今年には1945年8月15日に第二次世界大戦が終結した日から80年たち、随所で戦争の記憶と平和の尊さを次世代へ伝えていくための企画が開催されています。

私は1951年に生まれましたので、「戦争を知らない子どもたち」と言われた世代です。

母が東京大空襲の日に叔母の手を握りしめ逃げ惑ったことや、2人の兄が出征した日のこと、一人のとても元気だった兄が戦後シベリアに抑留され、食事は一日黒パン1個で、重労働を強いられ、働けなくなったため、日本に帰され3か月後に亡

くなったこと、上野の駅周辺には多くの親を亡くした、俗に浮浪児という戦災孤児が大勢いたが、何もしてあげられなかったことなど、何度となく聞かされても、実感できませんでした。

父は陸軍の兵隊として南方に送られ、スマトラ島でイギリス軍の捕虜になったらしいのですが、詳しいことはわかりません。父は戦争中のことはほとんど私たち子どもには語りませんでしたし、私も聞こうとしなかったからです。ただ、祖母や母の話から終戦後父が捕虜となって収容所に入れられていたこと、ロシアの捕虜となって日本で亡くなった伯父とちがい、父が死ななかったのは、収容所の周りには明日葉のように生命力が非常に強い草や、蛇やナマズのような食べ物となる生き物がそこかしこにあったためだったからだと聞いたことがあります。また、父はコーヒーを絶対に口にしませんでしたが、これは収容所で毎日コーヒーが出されたからだと言っていました。父は右足のふくらはぎに握りこぶしくらいのひきつったような傷跡がありましたが、これは銃弾の破片がふくらはぎにあたり、それを取りだした時の傷だそうです。

私が鮮明に覚えていることがあります。それは父が寒い、寒いと言い、母に家中の毛布や布団、オーバーなどかけてもらっても、ぶるぶる震えて、寒い、寒いと言っていたことです。母は「大丈夫？大丈夫？」と言い、どうしてよいかわからない様子でした。父が「マラリアだ」といったのをよく覚えています。妹が生まれる前ですから、私が3歳になるかならないころのことです。その後、父のような兵隊はマラリアになっても薬ももらえず、もちろん看病してもらえず、手ぬぐいを自分で水で濡らして、額の上に置いて熱を下げたと聞きました。

そのほか、私が父について覚えているのは、「南十字星がとてもきれいだ」といったこと、ある日ブーゲンビリアの鉢植えを買ってきて、それをじっと見ていたこと、NHKの『みんな

のうた』で「川で歌おう」(Rasa Sayang) が放送されたとき、「これはインドネシアの歌だ」と驚いたように言ったことです。優しい、大変まじめな人でした。戦友の分まで働いたのでしょう。人の何倍も働き、定年になりすぐに亡くなりました。生きていたら今年 102 歳になる父の無言の戦争は、私に多くのことを語ってくれたような気がいたします。

最後に、父と同じ世代のご尊父をお持ちの詩人・鈴木恵治氏の東京新聞「むさしの俳壇」(2023 年 8 月 30 日)に掲載された俳句をご紹介します。

母を呼ぶ父のマラリア敗戦忌

<2025年8月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
11 名	メン 9 名 メネット 1 名 コメット 0 名 ビジター 29 名 ゲスト 9 名 合計 48 名	83% (メーキャップ 1 名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0 g 現金 0 円 年度累計 切手 0 g 現金 0 円

<9月の行事>

EMC

日	曜	時間	行 事 内 容	場 所
2	火	19:00	第 107 回 Y-Ys 協議会	中央 Y
5-7	金～日		YVLE	富士山 YMCA
11	木	18:30	横浜クラブ 9 月第一例会	中央 YMCA Zoom
23	火	10:00	YMCA フェスタ	とつか Y
27	土	11:30	横浜クラブ 9 月第二例会	Zoom

第一例会報告

かながわ部合同納涼例会

古田 和彦

日時：8 月 21 日（木）18：00～20：00

場所：ロイヤルホールヨコハマ

出席者：（横浜）秋元、大高、押川、加藤、古賀、齋藤、佐竹、菅原、古田メン・メネ（鎌倉）板崎淑子、千葉裕子、兵藤芳朗、藤井千枝子、若木一美・祥子（厚木）井筒幸乃、川口知幸、佐藤節子、徳澤洋子（金沢八景）木村久仁夫、黒川勝、峯尾舜、山田一男（横浜つづき）坂口直樹、森山真治（横浜つるみ）久保勝昭、久米康子、中村純子、渡邊光枝（大和クリエイティブ Y サービス）植木陽子、菊地節子、小松伸史、竹野美歩、長本真穂、渡辺伸明

ゲスト：富山姫路子、土方喜美代、泷龍一、向井多恵子、小

野瀬由美子、高橋真弓、齋藤奈穂美、長律子、小杉芳子
ビジター：衣笠輝夫（埼玉）、伊藤幾夫（東京多摩スマイル）、為我井輝忠（東京多摩スマイル） 計 48 名

例年、横浜クラブが主催して 8 月に納涼例会を行ってきたが、今年は、兵藤かながわ部長から、良い企画は部合同でなるべく多くの皆さんの参加を得て行いたいという方針が示され、その第一歩としてこの会はかながわ部合同例会と位置づけられた。その結果、上記のとおり部内 7 クラブの皆さんが参加し、加えて、ゲスト、東京の 2 クラブからのビジター合わせて 48 名の参加を得て実施することができた。

定刻 18：00、司会は古田ワイズにより開会。兵藤かながわ部長の点鐘と挨拶。一同で、ワイズソングを歌い、ワイズの信条を唱和し、押川ワイズが今月の聖句、イザヤ書 2：5 を朗読し、祈祷をささげた。乾杯は、7 月に横浜クラブに再入会された 95 歳の加藤利榮ワイズが行い、食事・歓談に入った。



開会点鐘 兵藤部長

乾杯 加藤ワイズ



座席は、受付時に抽選で決められ、6 テーブルに 8 人ずつ座った。そして、本日の企画の名刺ビンゴのため、同テーブルの方やその他の方との名刺交換が頻繁に行われた。食事が一段落したのち、板崎ワイズとゲスト参加の小野瀬さんなど 6 名の方々によるヘルマンハーブ演奏、次いで、衣笠ワイズのギター伴奏で古賀ワイズから「私の子どもたちへ」が紹介され共に歌った。この歌は 9 月に行われるユースボランティアリーダーズフォーラムにおけるテーマ「環境」にも関連した曲であることが紹介された。続いて、名刺ビンゴ。菅原ワイズの司会で行われ、交換した名刺のうち 9 枚を選んでビンゴ用紙に添付、縦横斜めに 3 枚揃った人がビンゴとなる。また、選ばれた名刺の方は会場で紹介された。ビンゴに到達した 1 人目から 10 人目までの方に賞品（クオカード）が渡された。最後にハッピーバースデー、古賀ワイズ（11）など 3 名を祝い、齋藤横浜クラブ会長の点鐘をもって 20：00 定刻通り閉会した。



ヘルマンハーブ演奏の面々

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★



「私の子供たちへ」を歌う



ビンゴをゲットした方々



参加者一同記念写真

第31回アジア太平洋地域大会 熊本2025 報告

古賀 健一郎

2025年8月1日～3日、熊本市にて第31回ワイズメンズクラブ国際協会アジア太平洋地域大会が開催されました。熊本での国際大会は初開催となり、18の国・地域から約583名（うち外国人135名、AYC参加者39名）が集い、熱気と活気あふれる大会となりました。



山田直前理事ご夫妻とかながわ部参加者

大会テーマは「For Greater Joy!（より大きな喜びのために）」。「このスローガンを体現するように、大会中には以下のようなキーワードが掲げられていました。

- Enjoy! Kumamoto — 歴史・文化、阿蘇の自然、そして清らかな湧水に育まれた熊本の美味に触れる喜び
- Enjoy! Fellowship — 各国・地域からの参加者との交流を通して深まる友情の輪
- Enjoy! Hot Summer — 蒸し暑い夏を吹き飛ばす「火

の国まつり」や、「おてもやん踊り」での熱いひととき

まさにこの大会は、「喜び」「交わり」「地域の魅力」の三拍子が揃った、忘れがたい時間となりました。

開会式では、エドワード・オン新国際会長（シンガポール）、田上正新アジア太平洋地域会長（熊本むさし）の就任式に続き、京都パレスクラブの大野嘉浩氏（在京都ラオス名誉領事）による基調講演が行われました。ラオスにYMCA職業訓練校を設立するまでの熱意と祈りに満ちたお話は、奉仕と国際協力の原点を思い起こさせてくれるものでした。

夜の晩餐会では、くまモンの登場や各国・各区によるパフォーマンスが続き、国際色豊かな交流の場となりました。2日目は阿蘇山や熊本城などを巡るエクスカッションに分かれ、熊本の豊かな自然や伝統を体験しました。夜には、ちょうどその日に開催される、夏の風物詩「火の国まつり」を楽しみました。AYC参加者による「カントリーロード」、全員での「YMCA」や「おてもやん踊り」で会場は大いに盛り上がりました。

3日目には日曜礼拝と国際書記長報告、そしてアジアユースコンボケーション(AYC)に参加しているユースたちによる「平和」への思いが語られ、未来へ希望をつなぐ大会として幕を閉じました。

熊本の皆様、特にホストクラブやYMCAの皆様のあたたかいおもてなしと、地域全体で迎えてくださった雰囲気、深く心を打たれました。まさに「For Greater Joy!」の名にふさわしい、忘れがたい大会でした。

【大会場の交わりの中で一小さな出会いがもたらした学び】

晩餐会で同じテーブルとなり、私の隣の席にいらしたのが、和歌山クラブの東正美さんでした。東西日本区の違いもあって、それまで面識はありませんでしたが、お話が弾むうちに、東さんが米寿を迎えておられると伺い、大変驚きました。

ワイズ活動をはじめ、さまざまなことに前向きに取り組まれている姿勢、エネルギー溢れる語り口、そのみなぎる若々しさに、私は強く心を動かされました。

かながわ部にも、同じく米寿を迎えながら現役で活躍されている横浜つづきクラブの鈴木茂さんがいらっしゃいます。鈴木さんもまた、私が日頃より敬意をもって接している方です。東さんにご紹介したところ、すぐに意気投合され、3人でしばし楽しく懇談する機会を得ました。その際、東さんがこんな言葉を語られました。

「奉仕の働きはもちろん大切です。でも、それだけでなく、“ワイズライフを楽しむこと”がいちばん大事だと思うんです。多くの方との豊かな交わりに支えられて、私は本当に充実した時間を過ごしています。」

近年、ワイズメンズクラブに限らず、教会や市民団体でも「高齢化」が課題として語られがちです。しかし、東さんや鈴木さんのように、年齢を重ねながらも組織の中核で生き生きと活動されている姿を目の当たりにすると、「高齢だからこそ伝えられること」「長年の歩みが育む力」が確かにあることを実感します。お二人の生き方には、ワイズの未来を考える上でも多くの学びがあります。



鈴木さん・東さん・筆者

エドワード・オン国際会長の掲げたメッセージ「Together Stronger（ともに、より強く）」の通り、私たちは共にあることでこそ、希望を育み、変化を起こすことができるのだと改めて思います。世代を越え、地域を越えてつながるワイズの仲間たちと共に、これからも「For Greater Joy!（より大きな喜びのために）」を目指して、力強く歩んでいきたいと願っています。

横浜クラブからの参加者 大高、古賀、田口

AIDS 文化フォーラム in YOKOHAMA 報告

古田 和彦

横浜での第 32 回目となるエイズ文化フォーラムが、8 月 1 日（金）から 3 日（日）まで、横浜市神奈川区鶴屋町のかながわ県民センターで行われました。この企ては、1994 年 8 月横浜で開催された第 10 回国際エイズ会議をきっかけに、横浜 YMCA を中心とする市民たちの手弁当で始めたものです。横浜ではそれ以来毎年開催し 32 回目を迎えました。そして、この運動は今では京都、佐賀、名古屋、陸前高田へと広がっています。

8 月 1 日、10 時開会式、司会の方から、今年のテーマは、「みんなの本音が聴ける、語れる」と定め、29 の講座、19 の展示が展開されていることが告げられました。次いで、組織委員長の横浜 YMCA 総主事佐竹博さんはじめ、横浜いのちの電話、カトリック横浜教区、神奈川県保健福祉局の代表者とともに、ワイズメンズクラブかながわ部長の兵藤芳朗さんから挨拶がありました。開会式に続いてオープニングトークセッションが行われ、運営委員長の岩室紳也医師など 6 名の方々による「変わる社会、変わらない社会」と題して、今の社会は 32 年前とどう変わっているのか、また、変わっていないのか、生きづらさを抱えている人々たちにとってどうなのか話し合われました。

看護学校の学生など多くのボランティアに支えられ、エイズに対する偏見をなくすこの運動は、エイズ感染者に限らず LGBTQ などマイノリティの方々の人権を守り、生きやすい世の中を作り出す働き的一端を担っているのだと、しみじみ感じました。

横浜クラブの参加者：佐竹、古田

近況報告

海外生活よもやま話し

大高 治



現役時代、私は海外と関わる部門にいました。従って、海外で働きたい後輩が大勢おり、海外要員育成も役割の一つでした。希望の国に、希望の時期に行けた人ばかりではありませんが、その後の様子を見聞きすると、彼らの多くは、海外駐在員ではなく、漸次日本駐在員のようになって来まし

た。一端日本を離れると同じ国に 5 年 10 年と留まるか、イギリスから上海へ、アメリカからオランダへと転勤し、日本に戻っても 2～3 年で、また別の海外拠点に出て行くのです。海外展開が継続的に拡大している証拠ですが、子供さんの教育、両親の世話など大変だろうと心配にもなります。

昔は海外拠点から他の拠点への異動をゴルフのバンカー・トラップに例え、「バンカー to バンカー」と言い、同じ拠点に戻って来る同業の朋友には、歓迎と同情の意を込めて「お宅も人材難ですか」などと言いつつ合点の面持ちでした。そして、昭和一桁生まれの先輩達は、同じ時期に同じ国や都市で働く同業者を「戦友」と言う人がおりました。Business 上での激しい競争の反面、日本人会や得意先を中心とするゴルフ会など、「ははーん、戦友ねー、苦楽を共にした」と分かるころがありました。

海外赴任に際し他の部門からも挨拶に来てくれる人がおりました。そのような人達には 3 年後に感想を聞かせて下さいと、海外で働く際の注意事項や励ましのキャッチコピーの幾つかを渡したものでした。それは自分や他人の成功失敗例から導き出したものです。そのコピー 2000 年 2 月作が出来ました。18 項目ありますが、キャッチコピーだけのリストです。『地球はますます大きくなる、一生日本語で暮らせたら辛さだ、成金たれ、好いても惚れるな、「日本人に似ていますね」は誉め言葉ではない・・・など』です。内容が何であつたかが思い出せ、現在にも通じそうなものを時折紹介させて頂きたいと思います。

一方、定年退職してから 20 数余年、海外勤務を希望した男たちの中には、海外拠点の中心となって活躍している人も居りますが、定年を迎えた人も増えて来ました。そのような中で、「今、成田空港です。これから夫と共に海外に赴任します。お世話になりました」というメールが飛び込んで来ました。一昨年のことです。奥方が私の部門で活躍してくれた人でした。海外に赴任する人達に「頑張って」とは以前から言わないことにしていました。彼らは皆「頑張ろう」と心に固く決めているからです。「楽しんで、良い思い出を沢山持ち帰って下さい」と飛行場からメールをくれた 2 人にも応えました。

成金たれ

海外駐在員を将棋に例えると相手の「王様」を取りに行く駒に例えられます。そのポジションは「金」ではなく「歩」でもありません。最近の海外のオペレーションでは、多くの会社で現地化が進み、社長や部長にも現地の優れた人材が採

用されているところが多くなり、日本人は彼らのサポート役という例が増えているようです。だが、昔と変わらないのは、駐在員が現地に着任して、相手の陣中に入ると「一コマ」動けば「金」になれることです。しかし、現地では誰もひっくり返してはくれません。「金」になるには自ら引っくり返らなければなりません。それを周りは期待しています。海外で働く日本人は以前よりかなり増えていますが、日本にいた時より「良しにつけ悪しきにつけ」目立つ存在になります。それは周囲から期待され、支援を求められるからでもあります。飛行場からメールをして来た2人、今や職場でも居住地のコミュニティーでも「金に成って」活躍し、日々の生活をエンジョーイしているものと思います。

「日本人に似ていますね」は誉め言葉ではない

最近の日本の若者に、「自国の将来を明るいと思っているか」、「自国の社会に満足しているか」と問えば欧米諸国の若者と比べて、Yesの回答が少ないのはどうしてであろうか。諸外国の人々に劣らず日本人は誇り高い民族だと思います。海外に出るとそれがより強くなるのかも知れません。また若者は日本のエリートが多くが「日本を批判的に見る傾向が強い」ことに影響されているからであろうか。

台湾には、アメリカ人、ドイツ人、オランダ人、台湾人、外省人（国民党軍と共に大陸から台湾に移って来た人達）、そして日本人と雑多な人が住んでおり、お客様も雑多でした。台湾の人口の13%を占める外省人の中には、日本軍が大陸で八路軍（共産軍）を助けたから、我々は郷里を捨て台湾に来ることになったと、我々を恨む人も居りましたが、共産軍が優勢だったのです。彼らの多くは勝ち組として台湾に君臨するプライドの高い人達でした。そして30～40年前までは、台湾人も国民党政府の教育によって、中国人（漢民族）であることに誇りを持っていました。その後台湾の民主化、経済成長、大陸との軋轢から、80%が台湾人であることに誇りを持つに至っています。

「郷に入って郷に従え」と会食会を大切にする社会の中で、吃飽了、笑飽了とよく食べよく飲み良く笑ったものでした。こういう時に「貴方は台湾人に似ていますね」とか「貴方のようなハンサムで背の高い日本人は居ない。中国人でしょう」というような話が飛び交います。そう言われた日本人はどう答えたら良いか困ってしまうのでした。一方、我々も美人に出会うと「貴女は日本人に似ていますね」と言う。

「私が日本人、カムオン、日本人で堪るか」と怒り出し人も居りました。「日本の女優さんに似ていると言うことですよ」と言っておさめたのでした。おそらく中華の民としての意識が高く、かつ艱難辛苦の末に、台湾に辿り着いた家族の一員ではなかろうか。

私たちはタイやインドネシアなどからの来訪者が日本人のような風貌だと、ためらいもなく「日本人に似ていますね」と言います。それは貶したのではなく褒めたのです。先に「台湾人に似ていますね。そんなハンサムな日本人は居ない」と言われた友に「これは最上の誉め言葉でしょうね」と聞けば、「そうです。褒められたのですね」歓迎の意を込めて、親近感を高め、良い雰囲気をつくろうとしてくれたのですね。「答えは一つしかありませんね」「そうですね。謝々妳、謝々你です」ありがたいが自然に出て来るようになりますと

「有難さが段々と増して来るのですね」

だからと言って軽々に「日本人に似ていますね」を使う訳には行きません。誰もが自分の国の国民としての誇りを持っています。家族やその社会が持つ日本感は一様ではありません。日本が東南アジア諸国の独立を助け、経済援助をして友好関係を築き上げてきたことは事実です。だが、そのことを学校などできちんと習っている人ばかりとは限りません。こちらからその貢献を100と視れば、先方からの評価は6掛け、60と視る謙虚さが必要だと思います。そしてその友好関係を続ける活動が大切です。元アサヒビールの樋口廣太郎社長が言っていたことでもあります。



担当主事 菅原 歩

9月に入り、ニュースでは「猛烈残暑」と放送されることがありますが、まだまだ残暑というよりも「夏」という気がします。暑過ぎる気温によって子どもたちの外遊びの機会は少なくなり、

10年後の子どもたちを取り巻く環境はどうなるのか心配です。私たちができる小さなことを積み重ねて、子どもたちの未来を残したいと願うばかりです。

- | | |
|-----------|---------------------------------------|
| 8月1日～3日 | AIDS文化フォーラム in 横浜 |
| 8月1日～10日 | サマーキャンプ in バンクーバー Camp Elphinstone |
| 8月7日～19日 | 地球市民育成プログラム グローバル・スタディーツアー in タイ 2025 |
| 8月9日～12日 | 台北スイミングフェスティバル |
| 8月17日～21日 | 富士山 YMCA SDGs キャンプ |
| 8月18日～20日 | ピースキャンプ～ひろしまスタディーツアー |
| 8月25日～29日 | 三都市 YMCA ユースキャンプ |
| 8月26日～29日 | 三都市 YMCA 会議 |

9月例会プログラム

日時：9月11日（木）18：30～20：00

場所：中央YMCA・オンライン

司会：古賀ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶・・・・・・・・・・齋藤会長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・・全員
3. 今月の聖句・・・・・・・・・・古田ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介・・・・・・・・齋藤会長
5. 日本語レベルコンテスト評価会・・・・山下校長/安富先生
6. ビジネス・報告・・・・・・・・・・齋藤会長
7. *Happy Birthday*
8. 閉会点鐘・・・・・・・・・・齋藤会長

例会報告 古賀ワイズ

10月の行事予定

日	曜	時間	行 事 内 容	場所
9	木	18:30	横浜クラブ 10 月第一例会	中央 Y
11	土	8:30	美しい港町横浜をつくる会 清掃活動	日本丸メモリアルパーク集合
18	土	8:00	チャリーティラン	臨港パーク
23	木	17:00	横浜クラブ 9 月第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 菅原歩にご連絡下さい。

メール sugahara_ayumu@yokohamaymca.org

電話 045-307-7556